

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 本号の読みどころ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/1872">https://repository.ninjal.ac.jp/records/1872</a>



大いに参考になると思います。

(井上 優)

#### [研究論文]

##### ◆孫 愛維「第二言語及び外国語としての日本語学習者における現場指示の習得—台湾人の日本語学習者を対象に—」

この論文は、台湾出身者において、台湾で学ぶ場合と日本で学ぶ場合とで「こ・そ・あ」の現場指示用法の習得状況に違いが見られることを示した研究論文です。

その違いとは、(1) 日本で学ぶ場合のほうが習得が早く進む、(2) 台湾で学ぶ者に誤用の「こ・そ」が多く見られる、(3) 日本で学ぶ者には日本語総合能力による差が見られないのに対し、台湾で学ぶ者には差が見られる（日本語総合能力が低い者に現場指示の誤用が多い）、といった点です。

調査はたいへん丁寧に行われており、わかりやすい論文になっています。調査対象をきちんと絞り込んでいて、かつ、調査対象の数が確保されている、という点も評価できます。調査結果の分析・考察、とくに上の(2)(3)の要因に関しては、さらなる調査が必要かと思われませんが、この調査結果は説得力を持つと思います。

(阿久津 智)

#### [報告]

##### ◇市嶋 典子・長嶺 倫子「『進学動機の自覚を促す』日本語教育実践の意義—レポート分析とエピソード・インタビューを基に—」

大学入試など差し迫った目標に迫られている学習者は、どうしても「試験対策」のための勉強に走りがちになります。この論文は、そういう状況に対する根源的な疑問—大学で何のために学ぶのか、という思索なしに試験対策だけしてよいのか—に端を発しています。

筆者らのグループは、大学入学前予備教育段階の学習者に対し「進学動機を問う活動」を行ないました。そしてその活動の中で、「学習者A」にどのような変化が起こったのかを、学習者の作文とエピソード・インタビューから探ろうとしています。

最初ごく通り一遍の動機しか書いていなかった学習者Aが、進学動機に関する考察を短期間で目覚しく深めていく様子は感動的なほどです。インタビューの記録からは、学習者自身も自分の変化を自覚し、それがこれからの人生に対する自信に結びついていく様子もうかがえます。

このような活動が、他の教育機関にも広まっていくことを期待するとともに、今後は、こうした活動になじめなかった学習者にも焦点を当てて考察が行われることを期待します。論文の中で、この活動にどうしてもなじめない学習者もいたらしいことが報告されています。そのような学習者に対してどのように接すればよいのか、ということが、次の大きな課題となるでしょう。

(宇佐美 洋)